

様式集

様式第 1 号（第 2 条関係）

年 月 日

（宛先）伊勢崎市長

申請者 住 所
氏 名
電 話
指定給水装置工事事業者
住 所
氏 名
電 話

開 発 配 水 管 帰 属 等 申 請 書

開発配水管の帰属等について、関係書類を添えて申請します。

- 1 水道の使用場所（対象地番全てを記入）
伊勢崎市
- 2 工 事 の 名 称 地内 工事
- 3 開 発 目 的 1 宅地造成による土地分譲
（○で囲む。） 2 宅地造成及び分譲住宅建築
3 その他（ ）
- 4 開発行為等の概要 開発面積 m² 区画数 区画
配水管口径 mm 布設延長 m
制水弁 基 消火栓 基
空気弁 基 給水管口径 mm
- 5 開発行為等の工期 着工 年 月 完成 年 月
- 6 給 水 希 望 年 月 年 月
- 7 添 付 書 類 (1) 位置図
(2) 開発計画平面図
(3) 開発配水管布設平面図
(4) 開発配水管布設詳細図
(5) 使用材料一覧表
(6) 給水工事設計書
(7) 道路位置指定通知書又は協議経過書
(8) 公図

〇〇町地内配水管布設工事【開発帰属】 〇-〇

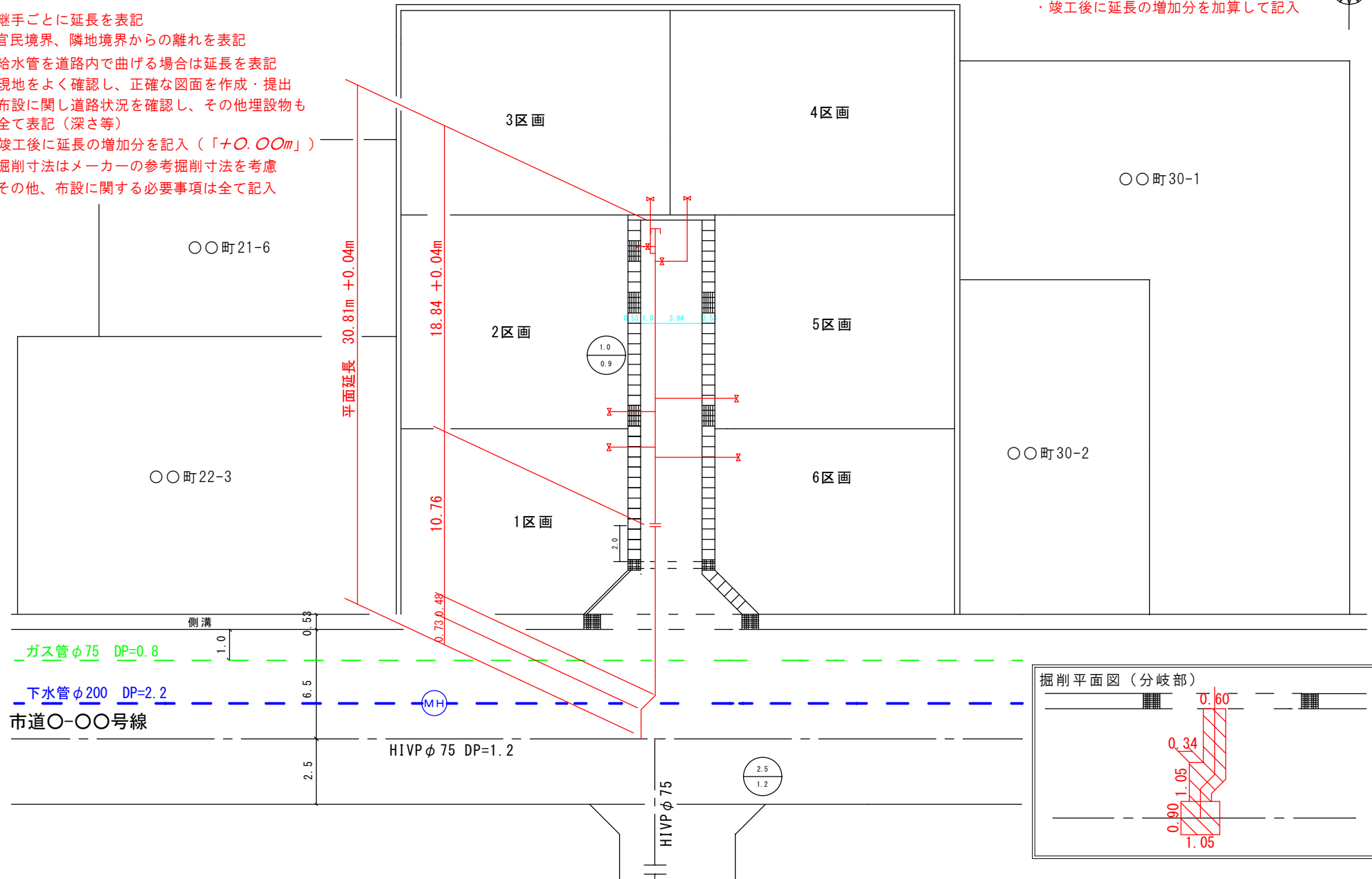
配水管布設平面図

- ・ 継手ごとに延長を表記
- ・ 官民境界、隣地境界からの離れを表記
- ・ 給水管を道路内で曲げる場合は延長を表記
- ・ 現地をよく確認し、正確な図面を作成・提出
- ・ 布設に関し道路状況を確認し、その他埋設物も全て表記（深さ等）
- ・ 竣工後に延長の増加分を記入（「+〇.〇〇m」）
- ・ 掘削寸法はメーカーの参考掘削寸法を考慮
- ・ その他、布設に関する必要事項は全て記入



平面延長 30.85m

・ 竣工後に延長の増加分を加算して記入



〇〇町地内配水管布設工事【開発帰属】 〇-〇

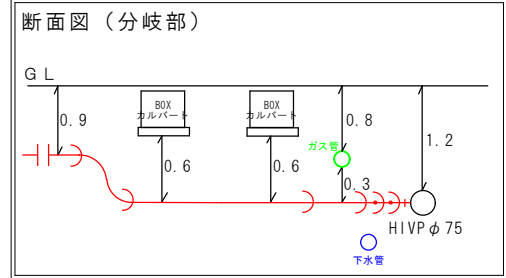
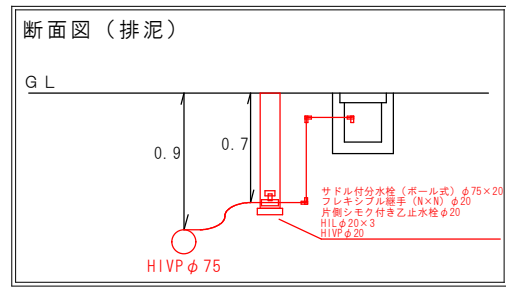
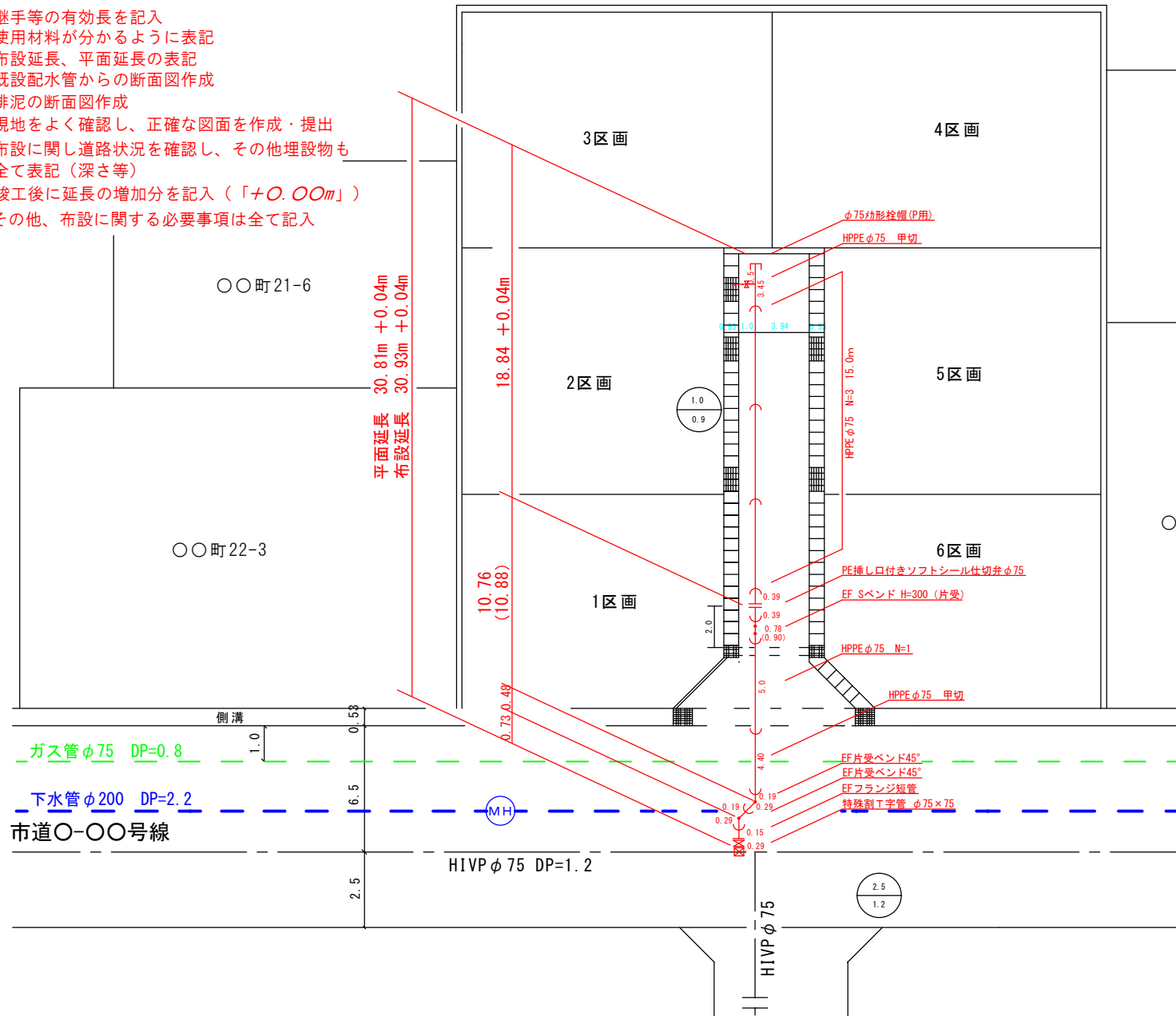
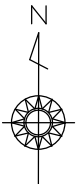
配水管布設詳細図

- ・継手等の有効長を記入
- ・使用材料が分かるように表記
- ・布設延長、平面延長の表記
- ・既設配水管からの断面図作成
- ・排泥の断面図作成
- ・現地をよく確認し、正確な図面を作成・提出
- ・布設に関し道路状況を確認し、その他埋設物も全て表記（深さ等）
- ・竣工後に延長の増加分を記入（「+〇.〇〇m」）
- ・その他、布設に関する必要事項は全て記入



平面延長 30.85m
布設延長 30.97m

・竣工後に延長の増加分を加算して記入



給水工事設計書

				—				
--	--	--	--	---	--	--	--	--

(略 図)

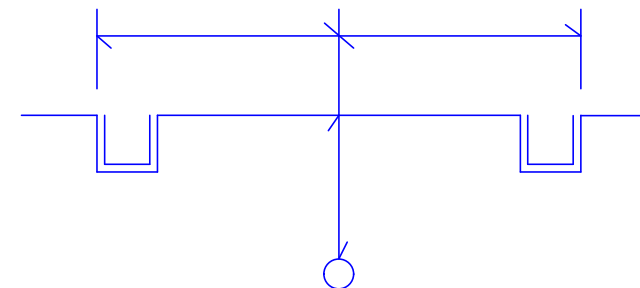
[illegible]

(平面図)



(立面図)

(断面図)



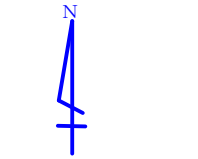
給水取出し記入例

Diagram illustrating the subtraction of two 4-bit numbers:

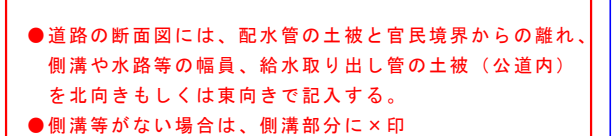
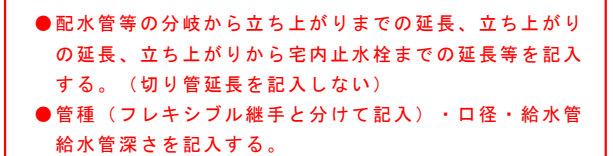
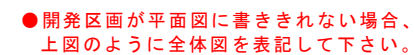
$$\begin{array}{cccc|c|cccc} 0 & 1 & 0 & 1 & - & 0 & 0 & 1 & 1 \\ \hline 0 & 1 & 0 & 1 & & 0 & 0 & 1 & 1 \end{array}$$

- ・ 給水取出し
- ・ 給水切替え

給水取出し記入例(略 図)



- 消火栓や制水弁等の中心から分水サドルまでの距離を記入。
- 分水サドルから止水栓までの距離を記入。
- 周辺の住宅の居住者及び番地等を記入。
- 該当場所を赤線で囲み、番地を記入。
- 各寸法は小数点第二位までとし、小数点第2位が0の場合は省略とする。（平面図、立面図、断面図）

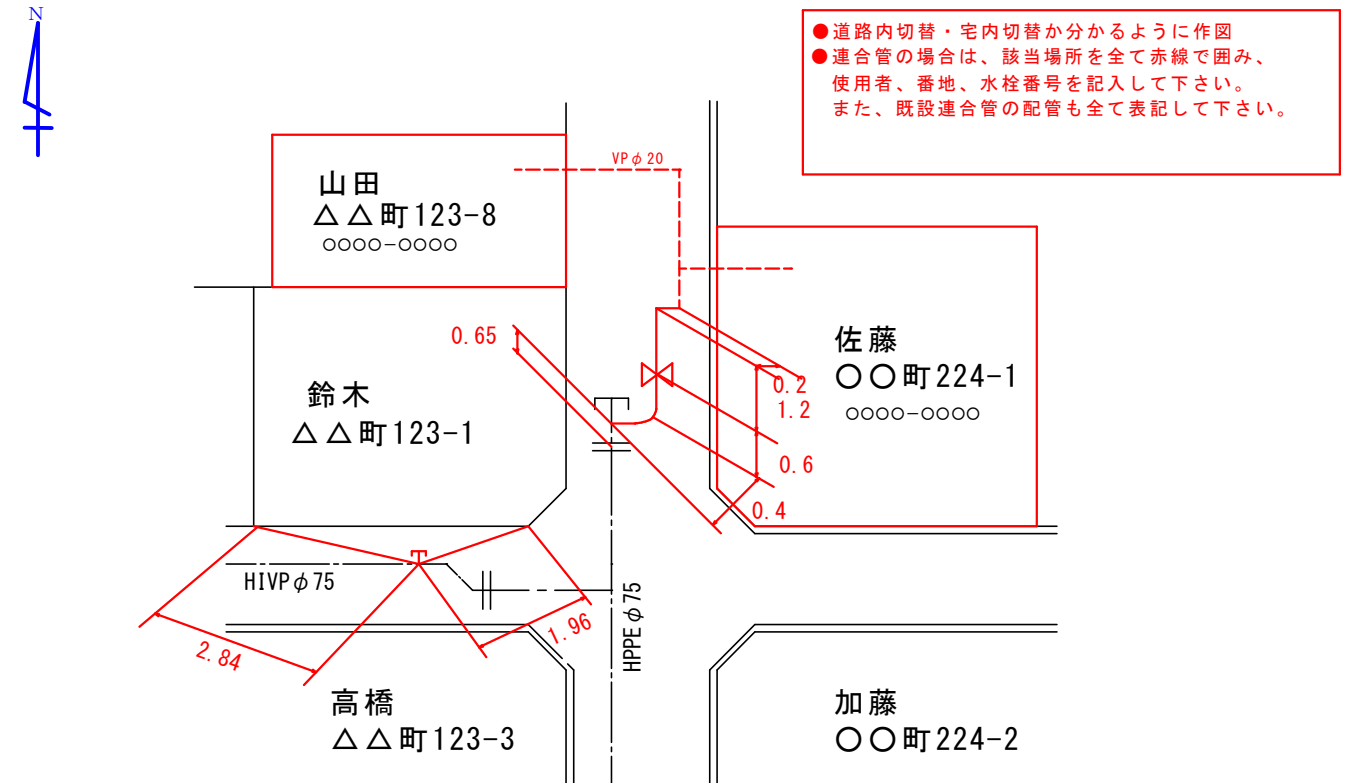


給水工事設計書

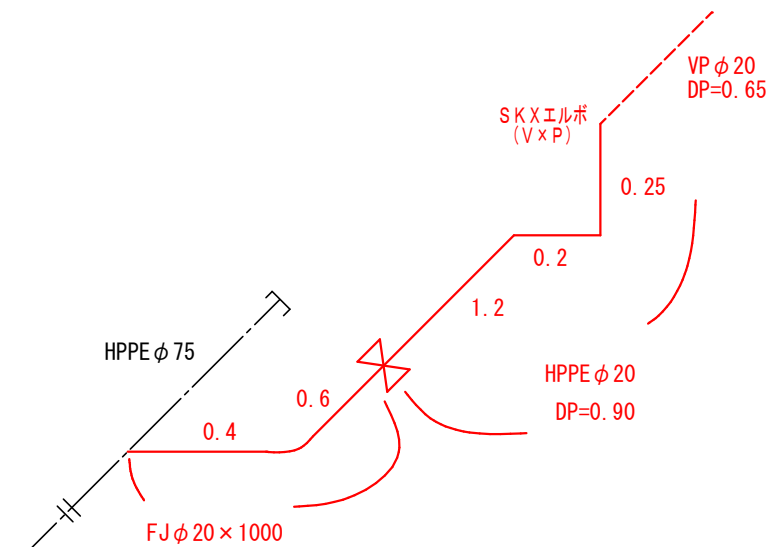
○	○	○	○	—	○	○	○	○
---	---	---	---	---	---	---	---	---

[illegible]

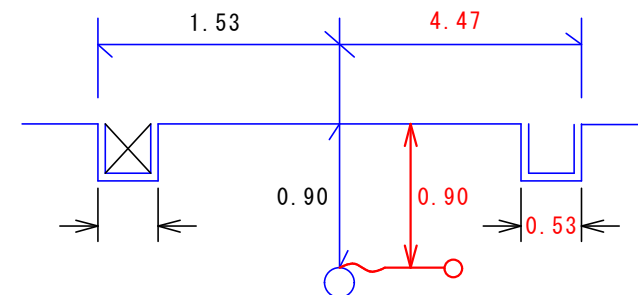
(平面図)



(立面図)



(断面図)



工程表

[illegible]

課長	係長

工 事 打 合 せ 書						
工事名						
施工者						
工事場所						
事 項						
項 目				発議年月日	監督員	現場代理人
指 示	承 諾	協 議	提 出	年 月 日	㊟	㊟
項 目	上記について	承諾 不承諾 回答 受理	年月日		監督員	現場代理人
			年 月 日		㊟	㊟
(理由)						

注 打合せの都度2部作成し、各々保管する。

開 発 配 水 管 引 継 書

年 月 日

（宛先）伊勢崎市長

申請者 住所

氏名

伊勢崎市上下水道局開発配水管帰属等受入基準第7条の規定により、次の開発配水管を引き継ぎます。

1 工事の名称

2 配水管

管種口径 mm、 平面延長 m、 布設延長 m

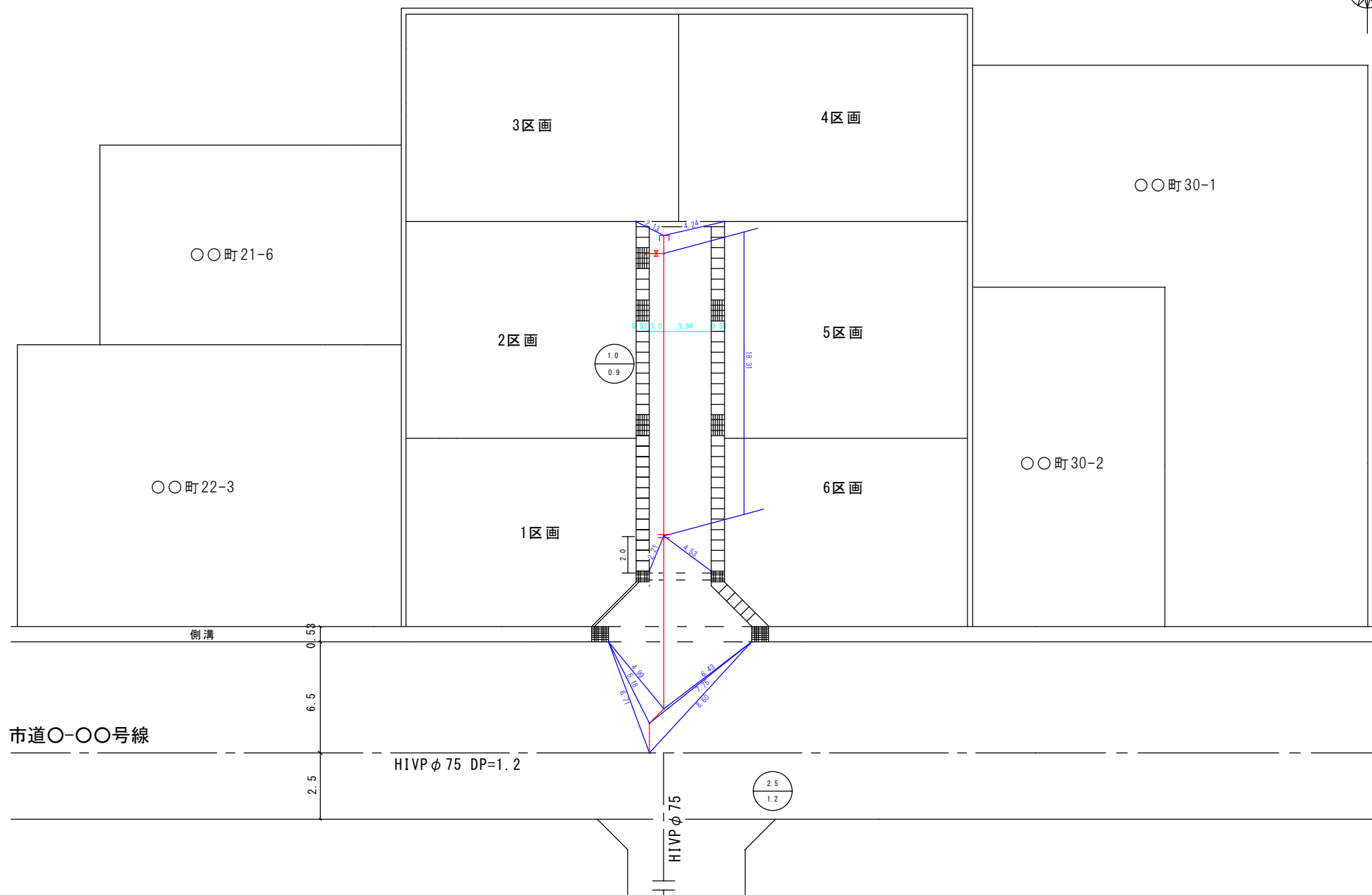
3 弁栓類

制水弁 基、 消火栓 基、
空気弁 基

4 寄附予定道路に開発配水管を入れた場合の添付書類

- （1）登記事項証明書の写し（伊勢崎市に所有権移転済のもの）
- （2）公図の写し

竣工オフセット図



使用材料調書

[illegible]

記入例

使 用 材 料 調 書

[illegible]

出 来 形 管 理 表

工 事 名

工事場所

工 期 着手 年 月 日

 竣工 年 月 日

工事施行者

出来形管理総括表

工事名

工事場所

[illegible]

使用材料集計表

[illegible]

埋設深度管理表（土被り）

測点	N o . 0	N o . 1	N o . 2	N o . 3	N o . 4	N o . 5	N o . 6	N o . 7
設計値								
実測値								

N o.0	N o.1	N o.2	N o.3	N o.4	N o.5	N o.6	N o.7
0.00							0.00
0.10							0.10
0.20							0.20
0.30							0.30
0.40							0.40
0.50							0.50
0.60							0.60
0.70							0.70
0.80							0.80
0.90							0.90
1.00							1.00
1.10							1.10
1.20							1.20
1.30							1.30
1.40							1.40
1.50							1.50
1.60							1.60
1.70							1.70
1.80							1.80

各構造物出来形管理表

[illegible]

耐 圧 検 査 報 告 書

年 月 日

工 事 名			
工事場所			
施工者名		現場代理人	

検査結果

[illegible]

GX形継手 チェックシート(直管・P-Link)

年 月 日

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

1 直管

b: チェックゲージの入り込み量

3 P-Link 締め付けトルク: 100N・m

b: チェックゲージの入り込み量

b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	8～18
100	8～18
150	11～21
200	11～21
250	11～21
300	14～24
350	14～25
400	14～25
450	14～25

2

矢視

白線

5

白線 (現地で明示した線)

6

白線 (現地で明示した線)

管 No.								
管の種類								
略図/ライナ								
継手 No.								—
挿し口突部の有無								—
清掃・異物の除去								—
ライナの位置確認(d部)※1								5 6
受口溝(ロッキング)の確認								—
挿し口の挿入量の明示								4 5
爪、押しボルトの確認(P-Link)								—
滑 剤								—
マーキング(白線)位置の確認※2								4 5
挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離の確認(異形管挿し口)※3								6
マーキング(白線)の明示(異形管挿し口)※4								6
受口端面～ゴム輪 間隔(b)※5	全周チェック							1 3
	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
	⑦							
受口端面～白線 間隔(a) ^{注)}	①							2 4
	③							
	⑤							
	⑦							
押しボルト	本数							4
	トルク確認							
判 定								—
備 考								

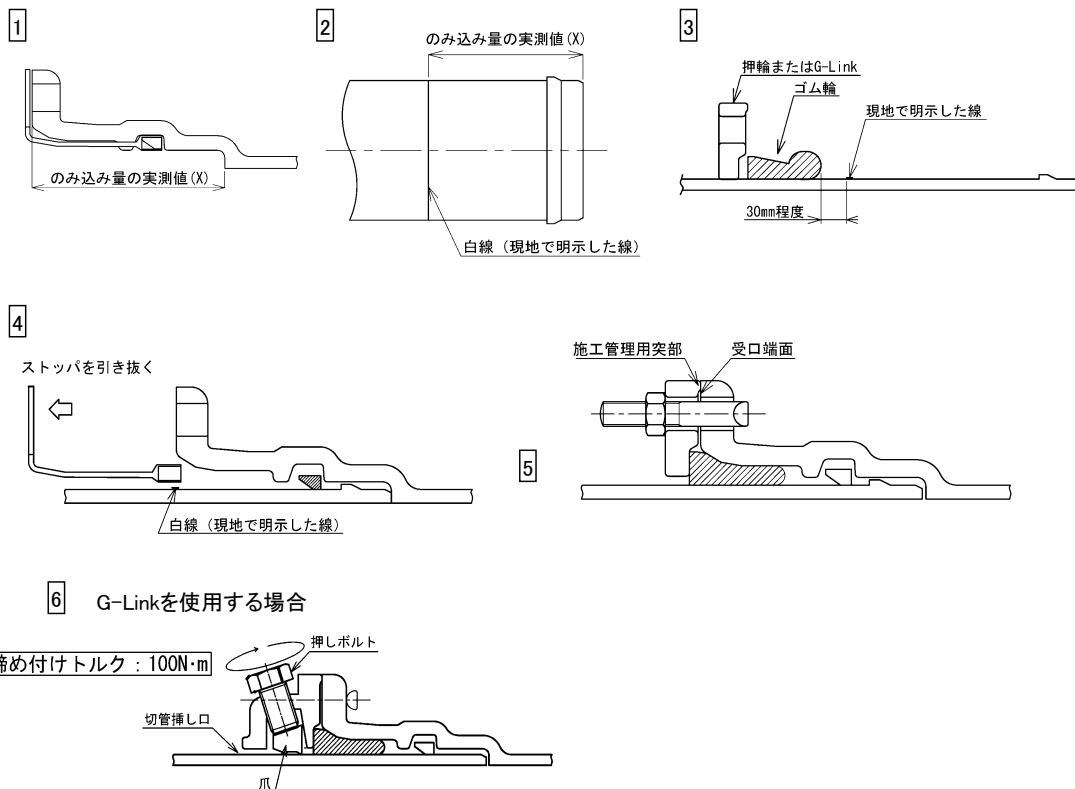
判定基準 : ※1 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
 ※2 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
 ※3 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
 ※4 挿し口外周へ受口端面位置の白線を表示したか確認する。
 ※5 受口端面～ゴム輪間隔(b)が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
 注) P-Linkの場合は受口端面からの直部長さ 4 a寸法を記入する。

GX形継手 チェックシート(異形管・G-Link)

年 月 日

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工



管 No.								
管の種類								
略図								
継 手 No.								—
挿し口突部の有無 ^{注)}								—
清 掃・異物の除去								—
ロックリング、STOPパの確認								—
挿し口の挿入量の明示								1 2
爪、押しボルトの確認(G-Link)								—
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認								3
滑 剤								—
STOPパの引き抜き								4
抜け出しチェック(挿し口突部有り)※2								—
T頭ボルト	本数							5
受口端面～ 施工管理用突部 の隙間 ※1	箇所数							5
	隙間ゲージ 確認							
押しボルト	本数							6
	トルク確認							
判 定								—
備 考								

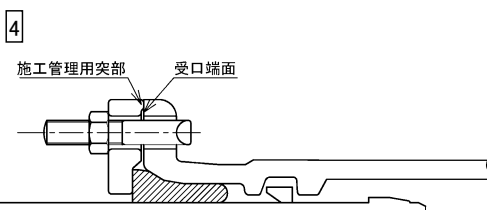
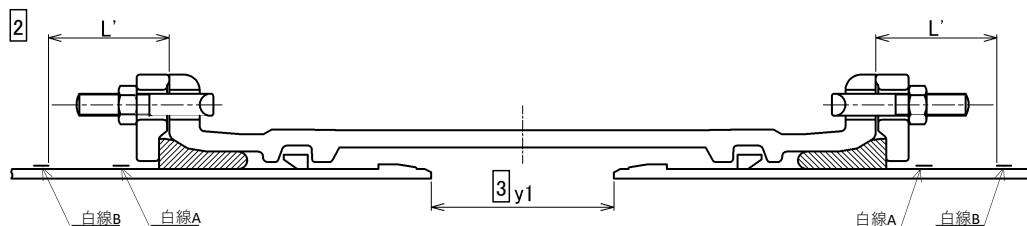
判定基準 ※1 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。
 ※2 挿し口を異形管受口に挿入し、STOPパを取り外した後、挿し口を上下左右前後に振って抜けないことを確認する。
 注) 挿し口突部のない挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

GX形継手 継ぎ輪チェックシート

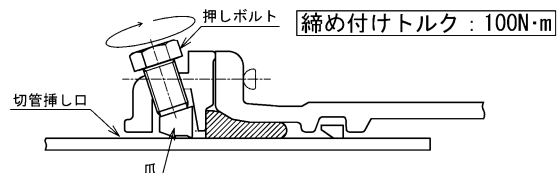
年 月 日

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

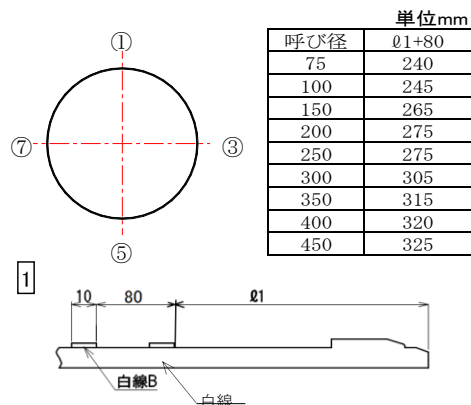
		配管工



5 G-Linkを使用する場合



管 No.			
管の種類			
略図			
継手 No.			—
挿し口突部の有無 ^{注1)}			—
清掃・異物の除去			—
白線A,Bの明示			1
爪、押ボルトの確認(G-Link)			—
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認			—
滑 剤			—
ロックリング、ストップの確認			—
ストップの引き抜き			—
受口端面～ 白線の間隔 (L') ^{注2)}	①		2
	③		
	⑤		
	⑦		
両挿し口端の 間隔 (y1) ^{注2)}	①		3
	③		
	⑤		
	⑦		
T頭ボルト	本数		4
受口端面～ 施工管理用突部 の間隔 ※	箇所数		4
	隙間ゲージ 確認		
押しボルト	本数		5
	トルク確認		
判 定			



(i) 一方から順次配管していく場合

単位mm

呼び径	L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135
350	145
400	150
450	155

(ii) せめ配管の場合

単位mm

呼び径	Y
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
350	300
400	300
450	300

判定基準 ※ 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

注1) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

注2) 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

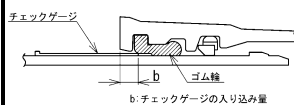
備 考

年 月 日

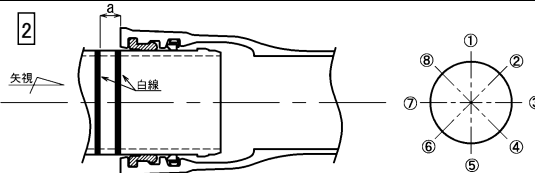
工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工

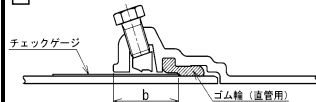
b寸法の合格範囲



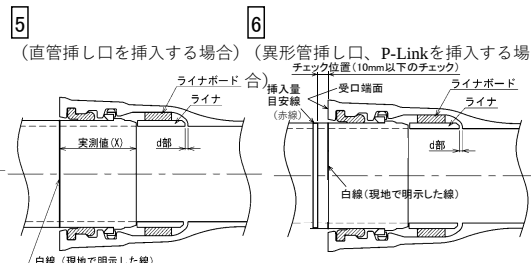
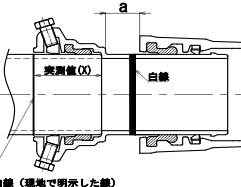
呼び径	合格範囲(mm)
75	8~18
100	8~18
150	11~21
200	11~21
250	11~21
300	14~24
350	14~25
400	14~25
450	14~25



4 締め付けトルク：100N・m



呼び径	合格範囲(mm)
75	54~63
100	57~66
150	57~66
200	63~72
250	63~72
300	70~80



管 No.											
管の種類											
略図／ライナ											
継手 No.											—
挿し口突部の有無		⇐ 挿し口突部の「有」・「無」の区別を記入する。※挿し口突部が「無」の場合には、P-Linkもしくは挿しロッキングを使用する。									—
清掃・異物の除去		⇐ 接合要領書に従って、管を清掃したら「OK」を記入する。									
ライナの位置確認(d部)※1		⇐ ライナが受口奥部に当たっていたら「OK」を記入する。									56
受口溝(ロッキング)の確認		⇐ 接合要領書に従って、受口溝、ロッキングおよびロッキングホルダを確認したら「OK」を記入する。(直管受口の場合)									—
挿し口の挿入量の明示		⇐ のみ込み量の実測値(X)を白線で明示したら「OK」を記入する。(P-Link・ライナ付直管受口の場合)									45
爪、押しボルトの確認(P-Link)		⇐ 接合要領書に従って、爪および押しボルトを確認したら「OK」を記入する。(P-Linkの場合)									—
滑剤		⇐ 接合要領書に従って、滑剤を塗布したら「OK」を記入する。									—
マーキング(白線)位置の確認※2		⇐ マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあれば「OK」を記入する。									45
挿入目安線(赤線)と受口端面間距離の確認(異形管挿し口)※3		⇐ 挿入目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であれば「OK」を記入する。									6
マーキング(白線)の明示 (異形管挿し口)※4		⇐ 挿し口外周に受口端面位置の白線を明示したら「OK」を記入する。									6
受口端面～ゴム輪 間隔(b)※5	全周チェック	⇐ 全周にわたってb寸法が合格範囲に入っていれば「OK」を記入する。									
	①										
	②										
	③										1
	④	⇐ ①③のように、受口端面からゴム輪までの間隔(b)(mm)を記入する。									3
	⑤										
	⑥										
	⑦										
受口端面～白線 間隔(a) ^注	①										
	③	⇐ ②のように、受口端面から白線Bまでの間隔(a)(mm)を記入する。 または ④のように、受口端面からP-Link直部受口端までの間隔(a)(mm)を記入する。									2
	⑤										
	⑦										
押しボルト	本数	⇐ 締め付けた押しボルトの本数(本)を記入する。(P-Linkの場合)									4
	トルク確認	⇐ 押しボルトを規定のトルク(100N・m)で締め付けられれば「OK」を記入する。(P-Linkの場合)									
判定		⇐ 全てのチェック項目を満足していれば「OK」を記入する。									—
備考											

判定基準：※1 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
 ※2 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
 ※3 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
 ※4 挿し口外周へ受口端面位置の白線を表示したか確認する。
 ※5 受口端面～ゴム輪間隔(b)が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。

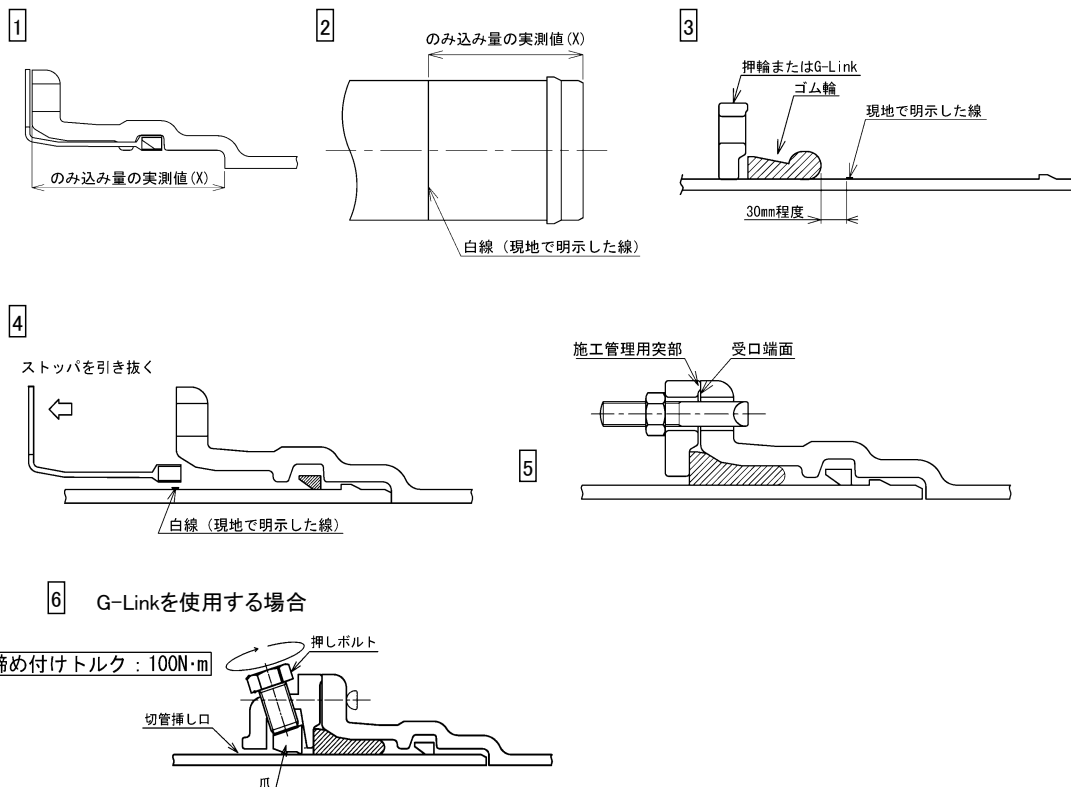
注) P-Linkの場合は受口端面からの直部長さを4寸法を記入する。

GX形継手 チェックシート(異形管・G-Link)

年 月 日

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工



管 No.									
管の種類									
略図									
継手 No.									—
挿し口突部の有無 ^{注)}									—
清掃・異物の除去									—
ロックリング、ストッパの確認									—
挿し口の挿入量の明示									1 2
爪、押しボルトの確認(G-Link)									—
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認									3
滑 剤									—
ストッパの引き抜き									4
抜け出しチェック(挿し口突部有) ^{※2}									—
T頭ボルト	本数								5
受口端面～ 施工管理用突部 の隙間 ^{※1}	箇所数								5
	隙間ゲージ 確認								
押しボルト	本数								6
	トルク確認								
判 定									—
備 考									

判定基準 ※1 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

※2 挿し口を異形管受口に挿入し、ストッパを取り外した後、挿し口を上下左右前後に振って抜けないことを確認する。

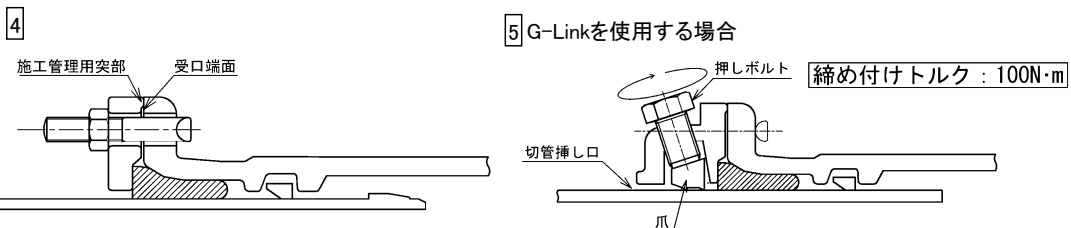
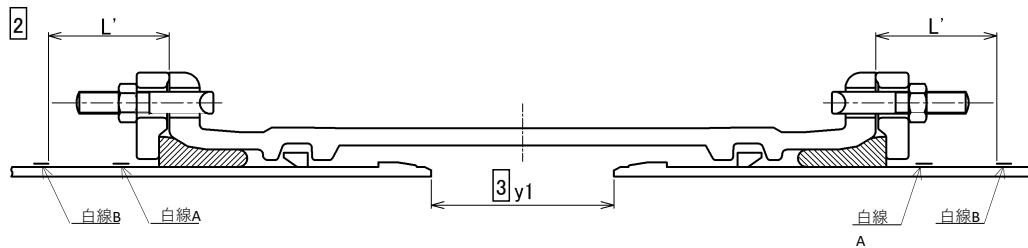
注) 挿し口突部のない挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

GX形継手 継ぎ輪チェックシート

年 月 日

工事名	
図面No.・測点	
呼び径	

		配管工



管 No.			
管の種類			
略図			
継手 No.			—
挿し口突部の有無 ^{注1)}		挿し口突部の「有」「無」の区別を記入する。※挿し口は挿しリングを使用する。	
清掃・異物の除去		接合要領書に従って、管を清掃したら「OK」を記入する。	
白線A,Bの明示		白線A,Bを明示したら「OK」を記入する。(切管挿し口合)	
爪、押ボルトの確認(G-Link)		接合要領書に従って、爪および押しボルトを確認したら「OK」を記入する。(G-Linkの場合)	
ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認		接合要領書に従って、ゴム輪、押輪またはG-Linkを確認したら「OK」を記入する。	
滑 剤		接合要領書に従って、滑剤を塗布したら「OK」を記入する。	
ロックリング、ストップの確認		接合要領書に従って、ロックリングおよびストップを確認したら「OK」を記入する。	
ストップの引き抜き		ストップを引き抜いたら「OK」を記入する。	
受口端面～白線の間隔 (L') ^{注2)}	①		(i) 一方から順次配管していく場合 単位mm 呼び径 L' 75 90 100 95 150 110 200 120 250 120 300 135 350 145 400 150 450 155
	③		
	⑤		
	⑦		
両挿し口端の間隔 (y1) ^{注2)}	①		(ii) せめ配管の場合 単位mm 呼び径 y1 75 190 100 200 150 240 200 250 250 250 300 300 350 300 400 300 450 300
	③		
	⑤		
	⑦		
T頭ボルト	本数		締め付けたT頭ボルトの本数(本)を記入する。
受口端面～施工管理用突部の隙間 ※	箇所数		押輪の施工管理用突部と受口端面の隙間を隙間ゲージで確認した箇所数(箇所)を記入する。
	隙間ゲージ確認		接合要領書に従って、隙間のないことを隙間ゲージで確認したら「OK」を記入する。
押しボルト	本数		締め付けた押しボルトの本数(本)を記入する。(G-Linkの場合)
	トルク確認		押しボルトを規定のトルク(100N・m)で締め付ければ「OK」を記入する。(G-Linkの場合)
判 定			全てのチェック項目を満足していれば「OK」を記入する。
備 考			

判定基準 ※ 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。

注1) 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。

注2) 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。

E F 接合チェックシート

E F 接合チェックシート											
工事名：											
呼び径：mm				施工場所：							
発電機の機種名：						コントローラの機種名：					
正常作動確認： 正常（100V～110V） 異常						正常作動確認： 正常（エラー表示なし） 異常					
確認ポイント											
継 手 No.											
略 図											
	天候										
融着	管の点検・清掃										
	切削長さのマーキング										
	融着面の切削										
	融着面の清掃										
	挿入標線の記入										
	管と継手の挿入・固定										
検査	正常終了の確認	正・異	正・異	正・異	正・異	正・異	正・異	正・異	正・異	正・異	正・異
	通電終了時刻	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
	インジケータの確認										
冷却	冷却時間(分)										
	固定の解除時刻	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:
接合総合判定		合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否	合・否
備考：											
施工年月日				施工会社名			現場代理人氏名			施工者氏名	
年 月 日											